

第4回 サステナブルテクノロジーセミナー

持続可能な社会の実現に向けて

～脱化石燃料、CO₂ 排出削減のための水素等の利活用～

国は昨年12月に発表した「水素基本戦略」において、日本の課題であるエネルギーセキュリティ・自給率を高めることおよびCO₂の排出削減に対して、水素を利活用する基本戦略を策定しました。「水素社会の構築」に向けてはモビリティ分野が先鞭をつけており、水素をエネルギー源とする燃料電池車や水素ステーション網などのインフラ整備がすでに2000年初頭から進められています。また、北九州市など産学官が一体となって水素社会の実現に向けた先進的な取組みを進めている地域も知られています。

その一方で、水素ステーションは日本海側にはまだ一つも設置されておらず、燃料電池車の普及も当初の思惑に比べ遅々として進んでいません。また、ヒンデンブルク号の爆発事故など、「水素」という危険な物質に対する取扱い上の課題がよく知られており、「水素社会」というゴールに対する懐疑的な見解も少なからず見られます。

当財団はこの現状を鑑み、現在の日本の水素への期待と課題を明らかにし、さらには世界各国が水素戦略を自国の中でどのように位置付けているかを本セミナーで整理したいと考えています。本セミナーが我が国の将来を考える上での材料の一つとなり、自社の戦略検討の一助となれば幸いです。この分野にご興味のある企業や大学の研究者のみなさま、奮ってご参加下さい。

○日時：平成30年3月20日(火) 14:00－16:30（交流会 16:30－17:30）

○会場：ホテル金沢 4Fエメラルド（金沢市堀川新町1番1号）

○プログラム(予定)

1. 開会挨拶

一般財団法人北陸産業活性化センター 専務理事 堂谷 芳範

2. 基調講演「低炭素社会を目指す世界と日本の取組み ―水素の可能性と課題―

株式会社テクノバ エネルギー・水素グループ グループマネージャー 丸田 昭輝 氏

3. 事例・研究紹介

「メタンを活用した水素社会構築の可能性について」

富山大学 研究推進機構水素同位体科学研究センター センター長・教授 阿部 孝之 氏

「エネルギーキャリアの直接使用を目指すギ酸循環社会」

金沢大学 理工研究域機械工学系 准教授 辻口 拓也 氏

4. 閉会挨拶

一般財団法人北陸産業活性化センター 常務理事 三瀬 隆

○交流会(参加無料)

16:30より、交流会を開催致します。ご発表された研究者の皆様もご参加されますので、奮ってご参加下さい。

○参加申し込み

<申し込み先> 一般財団法人北陸産業活性化センター

FAX:076-264-3900

Mail:mail@hiac.or.jp

下記にご記入の上、FAXまたはメールで3月16日(金)までにお申し込み下さい。

企業・団体名		
ご連絡先	TEL: (ご担当)	
参加者氏名	部署・役職名	ご氏名
	部署・役職名	ご氏名

* お申込みいただいた個人情報につきましては当セミナー以外には使用いたしません。



〔丸田 昭輝 氏〕

講師略歴

1991年より(株)インターリンクにて、EV、FCV等の次世代自動車関連調査や海外調査を多数実施。

2003年からは(株)テクノバにおいて、多くの水素・EV・蓄電池等のプロジェクト(NEDO、自治体、民間)に参画し、NEDOの「蓄電池ロードマップ2013」、「水素技術ロードマップ2010」等の事務局も担当。

2005年以降は、主要国の政策交流組織である「水素・燃料電池国際パートナーシップ(IPHE)」の日本代表団メンバーとしてもご活躍中。

高圧ガス製造保安責任者

理工学修士、国際関係学修士、MPA(Master in Public Administration)、博士(環境学)

講演概要

世界ではCO₂排出量を大幅削減するために、低炭素技術の開発や達成に向けたビジョン・シナリオ策定が進められている。この流れにおいて、日本は「水素社会の構築」を掲げているが、水素の活用方針には以下のような疑問も提起されている。

- ・日本の将来のエネルギー構造のなかで、水素はどのような役割を果たすのか？
- ・「EVシフト」の中で、水素やFCVはガラパゴス技術ではないのか？
- ・世界は水素エネルギーへの期待を持っていないのではないのか？
- ・そもそも水素は日本のためになるのか？
- ・水素は危険ではないのか？

本講演では、日本社会における水素の将来展望、現在の課題等を整理し、これらの質問に答えていく。